

2つの作業で縄文時代を学ぼう

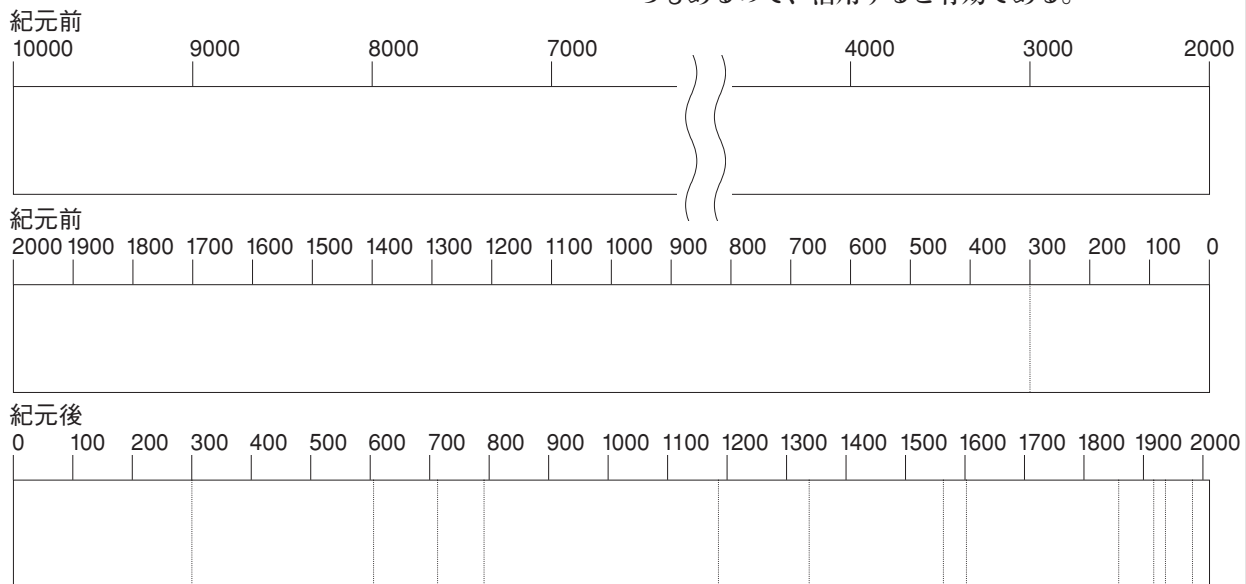
1. 歴史ものさしを作ろう

最近の歴史の教科書は、人物中心に構成されているが、人物だけでなく時代の流れについても子どもたちに意識させたい。そこで、「歴史上、一番長く続いた時代は何時代でしょう」と投げかけ、資料集や教科書の年表を参考にしながら、下の図に平成からさかのぼって順番に定規で区切り線を入れながら、時代の書き込みをさせる。最初は、江戸時代が一番長いという予想ができるかもしれないが、作業をすると、圧倒的に縄文時代が長いことに気づく。

そこで、なぜ縄文時代がこんなに長く続いたのか予想させる。予想が煮詰まってきたら、縄文時代にはなかったが、弥生以後の時代には必ず起きたものを考えさせる。そして、時代が変わるときには、いつも集団同士の戦争があったことをとらえさせる。最後に、こう投げかける。

「戦争のなかった縄文時代は、一番平和な時代だったのかな。」

* 下の図は、拡大コピーしてご活用ください。



2. まが玉を作ろう

児童の関心・意欲を高めるために、体験活動は効果的である。特に縄文時代は、土器作り、火おこしなどさまざまな体験活動を組むことができる。

ただ、教科時数にゆとりがなく、体験活動を組むことができない場合が多い。そこで、年度当初に図工や総合学習の年間指導計画に位置づけて、まが玉作りを行うというのはどうだろう。材料は、篆刻などに使われる高ろう石（普通のろう石でも可）。これに、きりで穴をあけ、ヤスリで形を整えながら削っていく。最後に、ひもを通して完成である。

こうした活動の後で、世界で最初に翡翠をアクセサリーに使ったのはどこの国の人だろう？世界で最初に熱いスープを飲んだのはどこの国の人だろう？と問いかける。三内丸山遺跡などの資料から調べていくと、実はどちらも縄文人だったことがわかる。

なお、地域によってはこうした体験活動をサポートしてくれる博物館などの施設がある。道具などを貸し出してくれたり、出前授業を行ってくれるところもあるので、活用すると有効である。